

講義年月日	2003年7月9日(水)
講演者	矢野 久氏(慶應義塾大学経済学部教授) 古賀 理恵子氏 村田 優美子氏(慶應義塾大学三田メディアセンター)
テーマ	慶應義塾図書館所蔵ドイツ語雑誌解題プロジェクトについて
講義内容	<p>1.教職員共同プロジェクトの成果と目的 課題</p> <p>(1)専門学術雑誌の現状 慶應義塾図書館は、ドイツ語に限定しても、500タイトル以上の雑誌を所蔵している。しかし、国内外にドイツ語雑誌のまとまった解題は存在しない。</p> <p>(2)雑誌の存在意義 読みたいと思う雑誌論文は先行研究の参考文献から知ることが多いが、これでは先行研究のフォローとなってしまう。オリジナルな研究のためには、図書館が所蔵する雑誌をどう使うかがポイント。ある雑誌を最初から見っていくと、どのようなテーマがあるか分かる。先行研究が見落としているテーマを見つけられる、という利点がある。</p> <p>(3)雑誌解題の意義 研究者が研究を進めるために、どのような雑誌にあたればよいのかを知っていることは重要。 利用可能な論文を見つけたとき、それがどのような性格の雑誌に載っているかを知っておくことは、重要。 図書館職員が、所蔵する雑誌についてどのくらい知識を持っているかが大切。 研究者より先詳しく知っておくべきである。 解題があれば、研究上の手がかりを提供できる。</p> <p>2.研究過程</p> <p>研究期間 2000年度～2002年度。 1.5h/週、就業時間内に研究会を行う 対象雑誌 243タイトル。 対象分野は、経済・社会・歴史。山中資料センターでの出張作業(2000年8月、2泊3日)、図書館地下5階書庫での作業によって、対象雑誌をリストアップしたのち、243タイトルに絞る。</p> <p>作業手順：対象雑誌の巻頭言、目次などを翻訳する。 翻訳をもとに、解題原稿を作成する。 週1回の研究会で、矢野が解題原稿のチェックを行う (研究会には、他に、大学院生3名が参加。) (注)当初、巻頭言・目次の翻訳を矢野がチェックし、その後解題原稿を作成していた。第2年次終了時、40タイトルしか終わっていなかったため、第3年次から上記の手順に変更し、作業のスピードアップを図った。</p> <p>3.成果物</p> <p>・Web上で公開 2003年6月、三田メディアセンターHPに掲載(備考参照)。 ・Web化の概要 作成方針、構成等を決め、HTML化作業は外注(2003年3～5月)、データはAccessで管理。 今後の予定 冊子化。データのアップデートについては検討中。</p> <p>4.感想</p> <p>研究過程で、書誌データベースの入力ミス等を修正でき、書誌がきれいになった。 いろいろなタイプの雑誌があることがわかり、面白かった。 ・1つの言葉の持つ意味が、時代や東西で違っていることを知った。 (例) Volk 民族・民衆・民俗という意味だが、東ドイツでは人民、ナチ時代は民族・人種。</p>
用語	解題 書物の成立・体裁・内容などについての解説。
感想	図書館で所蔵する資料の解題を作成し、広く利用者に情報提供する、というのは、非常に大切なことである。利用者の学習・研究を支援する上で、重要なツールとなるだろう。また、その作業に携わる図書館職員にとっては、その分野の知識を深める研修にもなり、素晴らしいと思う。
配付物	「慶應義塾図書館所蔵ドイツ語雑誌解題プロジェクトについて」
備考	慶應義塾図書館所蔵ドイツ語雑誌(経済・社会・歴史)解題 < http://www.mita.lib.keio.ac.jp/deutsch/ >